

承認番号	22500AMX01069000
薬価収載	2014年6月
販売開始	2002年7月
効能追加	2010年4月

経口プロスタグランジンI₂誘導体制剤
日本薬局方 ベラプロストナトリウム錠
ベラプロストナトリウム錠 20μg「JG」


劇薬
処方箋医薬品[※]

【貯法】
室温保存、密閉容器
【使用期限】
外箱に表示の
期限内に使用すること。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- (1)出血している患者(血友病、毛細血管脆弱症、上部消化管出血、尿路出血、咯血、眼底出血等)[出血を増大するおそれがある。]
- (2)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人(「6.妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

【組成・性状】

販売名	ベラプロストナトリウム錠20μg「JG」
成分・含量 (1錠中)	日局 ベラプロストナトリウム 20μg
添加物	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、ヒプロメロース、ステアリン酸マグネシウム、マクロゴール6000
剤形・性状	白色～淡黄白色のフィルムコーティング錠
外形	
大きさ(mm)	直径：6.1 厚さ：2.7
重量(mg)	83
識別コード	CH29

【効能・効果】

- 慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛及び冷感の改善
- 原発性肺高血圧症

【効能・効果に関連する使用上の注意】

原発性肺高血圧症

- (1)原発性肺高血圧症と診断された患者にのみ使用すること。
- (2)本剤は経口投与であるため、重症度の高い患者等では効果が得られにくい場合がある。循環動態あるいは臨床症状の改善がみられない場合は、注射剤や他の治療に切り替えるなど適切な処置を行うこと。

【用法・用量】

- 慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛及び冷感の改善
通常、成人には、ベラプロストナトリウムとして1日120μgを3回に分けて食後に経口投与する。
- 原発性肺高血圧症
通常、成人には、ベラプロストナトリウムとして1日60μgを3回に分けて食後に経口投与することから開始し、症状(副作用)を十分観察しながら漸次増量する。増量する場合には、投与回数を1日3～4回とし、最高用量を1日180μgとする。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

原発性肺高血圧症

原発性肺高血圧症は薬物療法に対する忍容性が患者によって異なることが知られており、本剤の投与にあたっては、投与を少量より開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら行うこと。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)抗凝血剤、抗血小板剤、血栓溶解剤を投与中の患者(「3.相互作用」の項参照)
- (2)月経期間中の患者[出血傾向を助長するおそれがある。]
- (3)出血傾向並びにその素因のある患者[出血傾向を助長するおそれがある。]

(4)高度の腎機能障害のある患者[曝露量(AUC)が増加するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1)本剤の有効成分は「ベラサスLA錠60μg」、「ケアロードLA錠60μg」と同一であるが、原発性肺高血圧症において用法・用量が異なることに注意すること。
- (2)原発性肺高血圧症において「ベラサスLA錠60μg」、「ケアロードLA錠60μg」から本剤へ切り替える場合には、「ベラサスLA錠60μg」、「ケアロードLA錠60μg」の最終投与時から12時間以上が経過した後に、本剤をベラプロストナトリウムとして原則1日60μgを3回に分けて食後に経口投与することから開始すること。また、「ベラサスLA錠60μg」、「ケアロードLA錠60μg」と同用量の本剤に切り替えると、過量投与になるおそれがあるため注意すること。
- (3)意識障害等があらわれることがあるので、自動車の運転等、危険を伴う機械の操作に従事する際には注意するよう患者に十分に説明すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗凝血剤 ワルファリン等 抗血小板剤 アスピリン チクロピジン等 血栓溶解剤 ウロキナーゼ等	出血傾向を助長することがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又はいずれかの投与を中止するなど適切な処置を行うこと。	相互に作用を増強することがある。
プロスタグランジンI ₂ 製剤 エポプロステノール ベラプロスト ^(註1) エンドセリン受容体拮抗剤 ボセンタン水和物	血圧低下を助長するおそれがあるため、血圧を十分に観察すること。	相互に作用を増強することが考えられる。

注1) 同一有効成分を含有する「ベラサスLA錠60μg」、「ケアロードLA錠60μg」等との併用に注意すること。

* 4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用(頻度不明)

- 1) 出血傾向(脳出血、消化管出血、肺出血、眼底出血)：脳出血、消化管出血、肺出血、眼底出血があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) ショック、失神、意識消失：ショック、失神、意識消失を起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、頻脈、顔面蒼白、嘔気等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) 間質性肺炎：間質性肺炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) 肝機能障害：黄疸や著しいAST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇を伴う肝機能障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

- 5) 狭心症：狭心症があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 6) 心筋梗塞：心筋梗塞があらわれるとの報告があるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2) その他の副作用

以下のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、適切な処置を行うこと。

	頻度不明
出血傾向 ^{注2)}	出血傾向、皮下出血、鼻出血
血液 ^{注2)}	貧血、好酸球増多、白血球増多、血小板減少、白血球減少
過敏症 ^{注2)}	発疹、湿疹、そう痒、蕁麻疹、紅斑
精神神経系	頭痛、めまい、ふらつき、立ちくらみ、眠気、もうろう状態、しびれ感、振戦、不眠、浮遊感
消化器	嘔気、下痢、食欲不振、上腹部痛、胃不快感、胃潰瘍、嘔吐、胃障害、口渇、胸やけ、腹痛
肝臓	AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、 γ -GTP 上昇、LDH 上昇、ビリルビン上昇、Al-P 上昇、黄疸
腎臓	BUN 上昇、血尿、頻尿
循環器	顔面潮紅、ほてり、のぼせ、動悸、潮紅、血圧低下、頻脈
その他	倦怠感、トリグリセライド上昇、浮腫、疼痛、胸部不快感、胸痛、関節痛、息苦しさ、耳鳴、発熱、熱感、発汗、冷汗、顎痛、気分不良、背部痛、頸部痛、脱毛、咳嗽、筋痛、脱力感

注2) 発現した場合には投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、用量に留意して投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- (2) 授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。〔動物実験（ラット）で乳汁中へ移行することが報告されている。〕

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。（慢性動脈閉塞症においては使用経験がない。原発性肺高血圧症においては使用経験が少ない。）

8. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

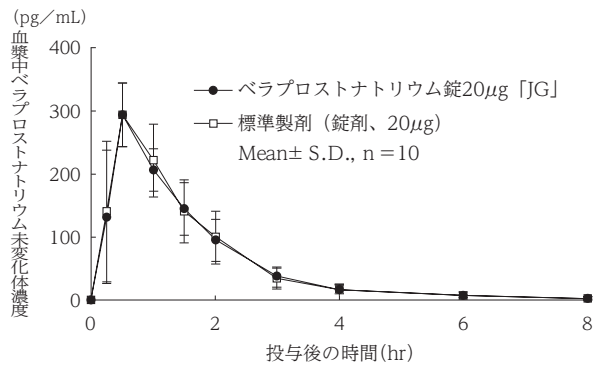
9. その他の注意

慢性動脈閉塞症において本剤を1日180 μ g投与したとき、副作用発現頻度が高くなるとの報告がある。

【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験

ベラプロストナトリウム錠20 μ g [JG] と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ2錠（ベラプロストナトリウムとして40 μ g）を健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中ベラプロストナトリウム未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log (0.80)~log (1.25) の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。¹⁾



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₈ (pg·hr/mL)	Cmax (pg/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
ベラプロストナトリウム錠20 μ g [JG]	470.4±72.8	300.9±47.9	0.5±0.2	2.6±2.1
標準製剤 (錠剤、20 μ g)	474.8±108.2	304.9±53.5	0.6±0.2	5.4±11.7

(Mean±S.D., n=10)

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出挙動

ベラプロストナトリウム錠20 μ g [JG] は、日本薬局方医薬品各条に定められたベラプロストナトリウム錠の溶出規格に適合していることが確認されている。²⁾

【薬効薬理】

安定なプロスタグランジン₂ (PGI₂、プロスタサイクリン) 誘導体。PGI₂と同様に、血小板や血管平滑筋のPGI₂受容体に作用して細胞内cAMP濃度上昇、Ca²⁺流入抑制、TXA₂生成抑制などを起こし、抗血小板作用や血管拡張作用を示す。³⁾

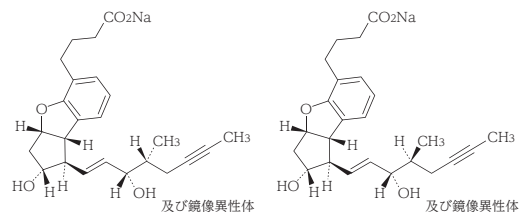
【有効成分に関する理化学的見聞】

一般名：ベラプロストナトリウム (Beraprost Sodium)
 化学名：Monosodium (1*RS*,2*RS*,3*aSR*,8*bSR*)-2,3,3*a*,8*b*-tetrahydro-2-hydroxy-1-[(1*E*,3*SR*,4*RS*)-3-hydroxy-4-methyloct-1-en-6-yn-1-yl]-1*H*-cyclopenta[*b*]benzofuran-5-butanoate
 Monosodium (1*RS*,2*RS*,3*aSR*,8*bSR*)-2,3,3*a*,8*b*-tetrahydro-2-hydroxy-1-[(1*E*,3*SR*,4*SR*)-3-hydroxy-4-methyloct-1-en-6-yn-1-yl]-1*H*-cyclopenta[*b*]benzofuran-5-butanoate

分子式：C₂₄H₂₉NaO₅

分子量：420.47

構造式：



性状：ベラプロストナトリウムは白色の粉末である。メタノールに極めて溶けやすく、水又はエタノール(99.5)に溶けやすい。吸湿性である。水溶液(1→200)は旋光性を示さない。

【取扱い上の注意】

安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験（室温保存、3年）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、ベラプロストナトリウム錠20 μ g [JG] の室温保存における3年間の安定性が確認された。⁴⁾

【包装】

ベラプロストナトリウム錠20 μ g [JG]

PTP：100錠（10錠×10）、1000錠（10錠×100）

【主要文献】


- 1)長生堂製薬株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験に関する資料)
- 2)長生堂製薬株式会社 社内資料 (溶出試験に関する資料)
- 3)第十六改正日本薬局方解説書
- 4)長生堂製薬株式会社 社内資料 (安定性試験に関する資料)

【文献請求先】


主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

日本ジェネリック株式会社 お客様相談室
〒100-6739 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
TEL 0120-893-170 FAX 0120-893-172

販売元

 **日本ジェネリック株式会社**
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

製造販売元

 **長生堂製薬株式会社**
徳島市国府町府中92番地